

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第2回相模原市小中一貫教育あり方協議会				
事務局 (担当課)		学校教育課 電話042-769-8284(直通)				
開催日時		平成30年2月9日(金) 9時30分～11時00分				
開催場所		第2別館 5階 教育委員室				
出席者	委員	3人(別紙のとおり)				
	その他	0人(別紙のとおり)				
	事務局	7人(松田課長、大津課長代理、他5人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	1人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		(1)開会				
		(2)相模原市小中一貫教育基本方針(案)について				
		(3)閉会				

経 過

主な内容は次のとおり。(〇 は委員の発言、 △ は事務局の発言)

(1) 開 会

：あいさつ

(2) 相模原市小中一貫教育基本方針（案）について

：小中一貫教育の基本方針について説明

：P 3の「1. はじめに」について意見はあるか。

：今の中学校2年生が大学受験をする頃には今の大学入試試験が変わる。また、キャリア教育に関する記述もあるが、将来、AI の登場により職業の質も変わっていくことが想定される。そのためには、覚えて答えを出すのではなく、自分がどう考えるかが大事になっていく。知識と技能のベースは必要だが、それ以上にこれからは自らが考える力を育てていくことが大事になる。

：今回の学習指導要領の改訂内容を見ると、前回までと違い、今の子どもたちが10年後の新しい時代を生きる力をつけることがねらいとして謳われている。教育者は時代の流れを捉えていかなければならない。

また、「はじめ」の中に社会性機能の低下について記述があるが、三世代家庭が減少しているため、異世代との交流が非常に重要だと思う。9年間を通した教育では、子どもたちは上級生を見て憧れを感じ、下級生を見て自己を振り返る。この比較や関わりが学力だけでなく、心の育成やキャリア教育の効果として現れてくると思う。

：地道な基礎学力が足りていないと感じており、その中でも特に書く力が不足している。また、勉強の楽しさも見出すことが出来ていないようである。小中一貫教育を通して、こういった力を持ち上げてほしい。学習に対して、どうやったらやる気が出るのかを考えていくことが大切である。

：今は高校への進学率が98%くらいになってきている。今までは、良い点数をとって学校に入るといった目標があって、中学校の勉強は覚えることが中心だった。これからは考えることが大切になる時代がきている。中学校も授業の在り方を変えなければならぬ。

：P 4の「(1) 子どもの課題」と「(2) 学校の課題」について意見はあるか。

：相模原の教育では市全体でどのようなビジョンをもっているのか。

：子どもの抱える課題として、将来が描けていないことや、自己有用感が低いなどの現状がある。そのため、将来に夢を持ち、自己を知り活かす力を育てる教育が求められている。基礎的な力も大事なため、両輪で進めていくべきだと考えている。

：実際に小中一貫教育に携わった立場から見て、P4の「3. 小一貫の基本的な考え方」についてどう感じるか。

：単に小中一貫と表現しても分かりにくい側面がある。本校では、小中一貫教育を「9年間を見通す教育」と説明している。小学校1年生の担任には、まずは中学3年生で卒業した時を見据えることが大事だと伝えている。小学中学校の教員も9年間を見通すべきであり、そうすれば九九などの基礎について、どうしたら基礎力をつけられるか共に考えていくことができる。

：中学校の先生は、小学校の教育課程の中でこのように学んで中学校に上がってきていることを、小学校の先生は、9年間を見通すことで小学校ではこのような力をつけさせなければいけないことが分かる。そのことを踏まえた教育を行なうと、子どもたちもギャップを簡単に乗り越えられる。

：保護者として、もし小中一貫校に入学できるとしたらどうか。

：ぜひ入れてみたい。子どもたちは、異学年の良いお手本があれば、自分も頑張らなければいけないと思える。幼稚園や保育園でお兄さん、お姉さんになっても、小学校、中学校それぞれの段差でまた下級生に戻ってしまい、せっかく身に付いた上級生としての意識や習慣が失われる場面を何度か見てきた。上昇を妨げることのないよう、段差をなくすことは必要だと考える。

：幼小のつながりや、学区によっては中高のつながりも考えていかなければならない。

：幼保小の連携も教育委員会として考えていきたいと思う。

：広い教育における段差を解消するには、学区や地域の実情に応じて、幼稚園・保育園や高校との結びを強めていくことも小中一貫教育には必要である。

：P6の「(3) 小中一貫教育でめざす教職員の姿」として、意識改革という記述があるが。

：小学校の算数、中学校の数学において、反比例はそれぞれで同じ内容に取り組むことになる。中学校の教員が小学校の授業を見に行くと、教え方に違和感を抱くことはよくある。お互いに小・中学校の教員がやりとりをしていくなかで、改善されていく面は大きいと考える。

：小中一貫教育の肝は教員の「意識改革」と言っても良いと考えている。まずはこのことを小・中学校の教員が理解することが重要である。

：学校には保護者としてどのように教育をしてほしいか。

：できない子どもを支援してほしい。とても勉強が苦手な子どもには、「そもそも、どうしたら良いのか分からない」という気持ちがある。その子たちに応じたケアも進

めていってほしい。また、そういった子どもは、一度課題にぶつかってしまうと、そのままやる気を失ってしまう傾向がある。P4の「2.本市の小・中学校における現状と課題」の「(1)子どもの課題」にも記載があるが、そこから学びに対する目的意識が持てなくなり、学力、体力の低下に繋がることは大いに有り得ると感じている。

：本校では、大学生が子どもに教えに来ているが、大学生と一緒に解き方を考える過程を共有することで、教員がこうだと教えるよりも、ずっと理解ができることがあるようだ。そのような場をつくってあげると、学ぶことが楽しいという瞬間ができる。

：その経験を通して、分からないのは恥ずかしい、人に聞くのは恥ずかしいというのは、なくなっていく可能性がある。9年間一つの場所で育つことで、大人になったときに心に残る。子どもたちにとってのふるさとを育てることになる。地域が先生だと思う。ゆくのき学園を見学して、地域が教室であり、先生であり、教科書であると感じた。

：P7の「3.家庭を含む地域との連携・教育」に書かれている小・中合同のPTA・地域行事の実施については、最初は小学校のPTAが困惑していたが、中学校の様子を知ることができた良かったようである。子どもが小中一貫すると、保護者も小中一貫になるのでとても良い。

：いまPTAのなり手がいない。小学校の保護者は子どもが学校に行っている間にやりたい。中学は夜の方がよいという意見がある。

：保護者の意識改革も必要になる。全保護者に向けて知らせてほしい。学力が相模原市は低いということを知らない方がいる。そういう人にこそ興味を持ってほしい

：まずは小・中学校の合同行事に来て直接見てもらうことが大事だと思う。

：全ての学校で実施するのは難しい。大きな学校は難しいと思う。

：相模原も規模は様々あるので、理念は一体していくが、やり方は変えていかなければならない。

：町田市は地区ごとに一貫の枠をつくっているが、とてもなかよく校長が交流している。「今度この行事を一緒にやろう」と話が出ている。発展した取組が見られるようになると思う。

：その区その区、その学区その学区でやり方を考えて進めていけば良い。「勉強が楽しい」ことをめざせば、それが学力につながる。9年間を見通した教育の中で、人間性も学んでいこう。保護者もその見通す教育に協力する形にしてほしい。20の政令市があるが、ぜひ相模原は9年間を通した教育を進めていくとアピールしてほしい。

第2回相模原市小中一貫教育あり方協議会委員出欠席名簿

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	古川 鉄治	白百合女子大学 教授	会長	出席
2	守屋 裕一	町田市立小中一貫ゆくのき学園 校長	副会長	出席
3	林 さとみ	相模原市小中学校PTA連絡協議会 本部役員	委員	出席